

建設技術展等の開催報告

いま 現在を支え未来を創る先進建設技術 「建設技術フェア 2017 in 中部」開催報告

事務局：国土交通省 中部地方整備局 企画部 施工企画課
中部技術事務所

1. はじめに

「いま 現在を支え未来を創る先進建設技術」をテーマに、「建設技術フェア 2017 in 中部」（主催＝国土交通省中部地方整備局，名古屋国際見本市委員会，共催＝（一社）中部地域づくり協会，（公社）土木学会中部支部）が平成 29 年 10 月 18 日（水），19 日（木）の両日，名古屋市の吹上ホール（名古屋市中小企業振興会館）にて開催されました（写

真－1）。

会場では技術展示のほか，講演会，セミナー，学生交流ひろば，ペーパーブリッジコンテスト，災害対策車両展示など，多彩なイベントの開催により，2 日間で過去最大の 14,517 名が来場しました。

2. 建設技術フェア in 中部とは

建設技術フェア in 中部（以下，「技術フェア」という。）は，1997 年の開催以降，今回で 21 回



写真－1 来場者で賑わう会場内

目を迎えました。

国土交通省では昨年を生産性革命「元年」、今年を「前進の年」として位置付け、社会全体の生産性向上につながるストック効果の高い社会資本の整備・活用、関連産業の生産性向上、新市場の開拓を支えることを目的に、i-Constructionをはじめとするさまざまな取組みを推進しています。

技術フェアでは、産学官の技術交流の場を提供し、技術開発や新技術導入の促進を図るとともに、建設分野を専攻している学生との交流や一般の方々に建設技術の魅力と社会資本整備の必要性を紹介することを目的としています。

このような背景のもと、今回の技術フェアでは「防災・災害対策」、「維持管理・長寿化」、「環境・リサイクル」、「i-Construction・設計・施工」、および主催者企画として「効率化・省力化・安全向上につながるロボット技術」の5分野から技術の募集を行い、昨年を上回る 272 企業・団体が出展しました。

3. 開催の様子

(1) 開会式

開会式では、塚原浩一中部地方整備局長、河村たかし名古屋国際見本市委員会会長(名古屋市長)からの主催者挨拶、掛布勇(一社)日本建設業連合会中部支部長から来賓挨拶をいただいた後、関係者によるテープカットを行い、2日間の技術フェアがスタートしました(写真-2)。



写真-2 開会式でのテープカット



写真-3 来場者で賑わう展示会場



写真-4 建設機械の実機を用いたデモ

(2) 技術展示

展示会場では、実物や模型などによる展示、VR(バーチャルリアリティ)による体験、建設機械の実機を用いたデモンストレーション、技術者による実演展示等が行われ、真っすぐ歩くのも困難なほど、多くの人で賑わっていました。また、各ブースでは来場者と出展者との意見・情報交換も積極的に行われており、当フェアの目的の一つである「技術交流」、「商取引の拡大」の場となっていることが実感できました(写真-3~5)。



写真-5 技術者による実演展示

(3) 講演会

10月18日は、「ロボット・AIが変えるインフラ管理」と題して国土交通省総合政策局公共事業企画調整課企画専門官の新田恭士氏と、「フィールドロボット技術」と題して芝浦工業大学 SIT 総合研究所特任教授の油田信一氏が、10月19日には、「建設 ICT の導入効果をさらに高めるために何が必要か」と題して名古屋工業大学名誉教授の山本幸司氏と国土交通省中部地方整備局 i-Construction 中部サポートセンター長筒井保博氏にご講演いただきました。

聴講者は熱心に聞き入るとともに、各講演とも準備した 300 席がほぼ満席となりました（写真－6）。

(4) 建設 ICT 推進セミナー

名古屋工業大学名誉教授の山本幸司氏、名城大学名誉教授の鈴木徳行氏をコメンテーターに迎え、“建設 ICT の導入による効果や課題、品質向上や創意工夫、最新の ICT 技術の紹介”などについて、5 名の方が発表を行い、建設 ICT の推進・普及に向けて提案や情報共有を行いました（写真－7）。

発表では、自動追尾型トランシットによる実演や九州北部豪雨における UAV を活用した流木調査についての報告もあり、災害時における最新の測量技術の利活用等についても、学んでいただきました。

(5) 学生交流ひろば

建設業界では「人手不足」、「将来を担う若者の建設業界離れ」など近年深刻な課題となっている中、「学生交流ひろば」は、将来、建設業界を目指す学生の不安や疑問を現場の第一線で活躍する先輩技術者との交流を通じて解消していくことを目的に企画されたものです。

2 日間を通して大勢の学生が訪れ、各建設業団体や行政機関の先輩方との交流を深めていました（写真－8）。

なかでも、女性技術者で構成する“けんせつ小



写真－6 満員となる講演会場



写真－7 建設 ICT 推進セミナー



写真－8 学生交流ひろば

町”による相談コーナーには非常に多くの女子学生が訪れ、先輩女性技術者に多くの質問をぶつけていました。



写真－9 災害対策車両展示



写真－11 出展技術プレゼンテーション



写真－10 ペーパーブリッジコンテスト



写真－12 継続出展者感謝状贈呈式

(6) その他

このほか、技術フェアでは「災害対策車両展示」、「ペーパーブリッジコンテスト」、「出展技術プレゼンテーション」、「継続出展者感謝状贈呈式」などの企画も行われました（写真－9～12）。

4. おわりに

今回の技術フェアは、2日目が雨にもかかわらず、過去最高の14,517名の方々にご来場いただくとともに、将来の建設業界を担う学生の来場者も約1,100名と、大盛況のうちに終了することができました。

建設技術フェア事務局では、開催にあたり過去の開催状況や参加者アンケート結果をもとに、よ

り良い技術フェアとなるよう、その都度改善・工夫を重ねてきています。

来年の技術フェアは、平成30年10月17日（水）、18日（木）に開催を予定しており、今後、準備を進めてまいりますので、引き続き多くの皆様にご来場いただきますようお願いいたします。

最後になりましたが、技術フェアの開催にあたりご尽力いただきました、出展者・関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

**建設技術フェア
2018in中部**

会期 2018年10月17日（水）・18日（木）
会場 吹上ホール（名古屋市中企業振興会館）

